

短期語学研修

国際学科プログラム P12▶13

国際学科2群科目 海外語学研修（専門）

経済学部国際学科に所属する学生は、夏季または春季休暇中に国際学科の指定する語学研修機関の留学プログラムに参加した場合、海外語学研修（専門）科目の単位を取得できます。

（別途申請が必要、現地での成績評価による）

期 間	夏休みまたは春休み期間中の約 3 週間
滞在形態	寮またはホームステイ（大学が指定）
単位認定	あり（一定期間内に申請が必要。現地での成績評価による）
留学費用	総額（2019年度参考）選択したプログラムにより異なる（約54～67万円） ※実際の費用は、参加人数・航空賃・為替レートなどにより異なります。
助成金・補助金	大学からの助成金 35万円 後援会助成金・同窓会補助金 4.5万円
説明会時期 【参加必須】	夏季プログラム： 4月上旬（申請時期 4月中旬～下旬） 春季プログラム：10月上旬（申請時期 10月下旬）

わたしの留学体験記

2019年度
夏季
留学時
2年生

留学先

EF サンタバーバラ校



経済学部国際学科

留安 純希

私は夏季の語学研修でサンタバーバラを訪れました。リスニングもスピーキングも全くできない私ですが、今回の留学を通して、英語を学ぶ上で3つの重要なことに気づきました。

まず1つ目は、心構えです。初めての海外だったこともあり、最初の1週間は、英語だけの環境にどう行動していいかわかりませんでした。最初はアメリカの環境に慣れてくっておなかを下してしまいました。また、学校のグループワークでは、聞くだけで精一杯で、会話に入ることは全くできませんでした。そんな最初の1週間だったので、「来ると間違えたかな」とも思いましたが、人間の適応能力はすごいんです。少しだけ英語耳が育って、余裕も出てきました。それを手助けしてくれたのは、EFに元々来ていた日本人と大学の仲間です。みんな同じように最初は戸惑うようで、そのときの克服法や心構えを教わりました。すぐに実践できる環境下にいるからこそ、生きたアドバイスでもありました。よって日本にいるだけでは身につかないスキルを手にして、留学後もその精神を土台に持ちながら英語学習を継続できたり、留学前よりもモチベーションを上げることができました。

2つ目は感情を伝えることです。高校までの英語教育は、感情よりも状況説明や会話表現に重点を置いていたと思います。そのため、本当に何かを伝えたいときに堅苦しく、人間味がないので会話も弾みませんでした。感情を伝えるためにはどうしたらいいかを考え、英語以外にボディランゲージを使ったり、表情を豊かにしたりすることを心がけました。それらを用いることによって、外国人と仲良くなれると思いました。

3つ目は広い知識と柔軟な発想です。EFにはいろいろな国から学生が来ています。そのため、会話をするにはいろいろな分野にアンテナを張る必要がありました。また、何の話をしているのか、全く分からないこともよくありました。その時感じたのは、会話の内容を理解するために必要な英単語を知らなすぎることでした。また、相手の言っていることを理解するためにも教養を身につける必要性を感じました。最初は、うわべの社交辞令が限界でした。とにかく会話は盛り上がり、話せてもせいぜい30秒くらいでした。一緒にいても気まずく、

自分の知っている英語能力の範囲でどう会話を成立させようか悩みました。英語力がないうちで、話すためにはどうすればいいか考えた結果、定型文や会話表現などをベースに、ニュアンスが違ってもとにかく話すようにしました。他にも、言いたいことを簡略化したりすると、ある程度通じることができました。英語はコミュニケーションのツールなので、たとえもっと正しい言い方があったとしても、伝わるのが最優先事項だと思います。そのためにも、柔軟な発想が重要だと感じました。

以上のことは、実際に英語を使ってこそ感じることです。だからこそ、みなさんも大学在学中の今、刺激的な体験を是非してください。



わたしの留学体験記

2019年度
夏季
留学時
2年生

留学先

EF ロンドン校



経済学部国際学科

伊波 美弥

国際学科語学研修プログラムでは、研修先がいくつかありますが、私は、紳士の国イギリスに憧れていたため、ロンドンを選択しました。渡航する前から、どんなホームステイ先かな、ルームメイトはどんな人かなと、ドキドキで胸がいっぱいでした。実際にホームステイ先に到着してみると、私と同じ語学学校のEFに通う生徒が、私の他に4人、同じ家にホームステイをしていることがわかりました。私のホームメイトは、フランス人、ペルー人、コロンビア人、中国人など様々な地域から来ていて、年齢は幅広く、全員私より年上で頼りがいのある人達でした。人によって滞在期間が異なるので、週ごとに去る人もいれば、新しく来る人もいました。ホームメイトは、学校までの行き方や公共交通機関の使い方を教えてくれたり、授業開始時間が同じの時は、一緒に登校したりしました。また、お互いの時間が合った時に、おしゃれなカフェやバックingham宮殿に行ったのは、とても印象深い思い出です。

学校の授業では、言いたいことが上手く英語で伝えられない、そもそもの内容が日本語でもわからない、そして、他の外国人の生徒が積極すぎる、と呆氣にとられていました。日本と海外の授業形式がかなり異なっていることは知っていましたが、自分が授業についていけないことに対して、英語を話すことから逃げたくなる気持ちもありました。それでも、私も最初はそうだったと、寄り添ってきてくれた韓国人のクラスメイトや、もっと積極的に頑張りたい、あなたならできると、応援してくれたホームメイトのおかげで、踏ん張ること

ができ、徐々に授業形式にも慣れてきて、楽しく感じることも増えました。授業を通して、積極性や間違いを恐れないことが大切だと感じました。

そして、今回のこの語学研修で1番印象に残っていることが、挨拶として、頬にチュッチュとする、チークキスをしたことです。ラテン系やスパニッシュ系のホームメイトやクラスメイトと別れ際や学校でばったり会った時にしました。なかでも驚いたのが、トイレで会った時にチークキスをしたことです。日本で生活しているだけではできない貴重な体験をすることができました。また、チークキスを通して、仲が深まったことを感じられて、とても嬉しかったです。

語学研修では、語学力を向上させるという目的はもちろんですが、その国の文化に触れたり、観光をしたりして、自分の視野を広げること大切だと思います。今回イギリスでは、イングリッシュティーを飲んでアフタヌーンティーを楽しんだり、グリニッジ天文台、オックスフォード、大西洋に面したブライトン、そしてブリティッシュパブに行ったり、思う存分イギリスについて知ることができました。また、イギリスは、博物館や美術館の入場料が無料というところに魅力を感じました。この語学研修を通して出会った人と、今でも交流が続いていることを嬉しく思うとともに、これからもっと英語力向上のために勉強に励んでいきたいです。

